

香川県における裸麦の新奨励品種「イチバンボシ」について

森芳史・藤田究・多田伸司・石井清文<sup>1)</sup>・井之川育篤<sup>2)</sup>・吉田一史<sup>3)</sup>

「イチバンボシ」は農林水産省四国農業試験場において四国裸 58 号(後のセンボンハダカ)と四 R 系 697 の交配の後代から育成された。本県では 1989 年より奨励品種決定調査に供試し,その特性について調査した結果が良好であったので,1992 年に裸麦奨励品種として採用した。イチバンボシの品種特性及び栽培特性について検討した結果は,以下のとおりである。

1. イチバンボシは、サヌキハダカに比べて,出穂期は 7 日程度,成熟期は 2 日程度早い早生種である。稈長はわずかに短稈であり,穂数は多く,多収であった。
2. イチバンボシはオオムギ縞萎縮病及び黄化症状に極めて強く,これらの発生が多い圃地においても生育が良好であるため,サヌキハダカに比べて極めて多収となった。
3. 加工適性については,イチバンボシは良質品種であるサヌキハダカよりも千粒重が大きく,軟質であり,原麦の外観品質はやや劣るが,搗精後の白度は高かった。
4. 播種期と施肥法について検討した結果,イチバンボシの播種適期は 11 月中～下旬であり,窒素総施用量は 0.9 kg/a とし,このうち 0.6 kg/a を基肥に,0.3kg/a を 2～3 月に追肥するのが適当と考えられた。